

(5) 石狩川(下流)水系流域治水プロジェクトの取組みについて グリーンインフラの取組み紹介

※今年度直轄事業として実施したグリーンインフラの取組みについてご紹介させていただきます。

グリーンインフラの取り組み紹介

※「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、**自然環境が有する多様な機能**(生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等)**を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。**

石狩川下流幌向地区自然再生 地域振興の取り組み ～ 河川環境学習

幌向再生の目指す利活用の将来像

『地域活動・学習の場』を継続・拡大していくことを利活用の将来像とする。(R2年度設定)

多様な関係者との連携・取り組み事例

地元NPO団体を中心に、地元若手農家グループ、地域おこし協力隊、教育機関、医療機関等、多様な関係者との連携が進んでいる。

環境学習

● 幌向小環境学習「幌向学」



近隣小学校の小学生を対象に「幌向」をテーマとした環境学習（導入体験等）を実施。

● 当別高校との環境学習



近隣高校（園芸デザイン科）への出前講座、現地観察等を実施。

地域と連携した湿原づくり

● 外来種駆除活動・ゴミ拾い



夕張川堤防のゴミ拾いを兼ねた外来種駆除活動を継続実施。リピーターが増加。

● 湿生植物移植体験



地域住民、地元若手農家グループ等と協働による湿生植物移植体験を継続実施。

● 医療機関との連携



医療機関で育てていただいた苗を自ら導入してもらう取り組みを継続実施。

幌向自然再生の取組の周知

湿原めぐりフットパスのイベントとしてアイヌ奏者等による演奏会や、若手農家グループ主催イベント等でのPR

● 湿原をテーマとした演奏会



● 地元イベントや北海道湿地フォーラムでのPR



参加者数・イベント回数の推移

多様な関係者との連携により、幌向再生地を訪れるイベント参加者、イベント回数が年々増加している。

・「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」(WS) 設立、自然再生実施計画書を策定

・幌向湿原フォーラム開催

・幌向湿原めぐりフットパス（以降、毎年開催）等

・地元商工会、若手農家グループ主催イベントとの連携

・外来種駆除活動（以降、毎年開催）等

・ヤチヤナギビール試作等



地域振興の展開

地域おこし協力隊による、幌向再生地のヤチヤナギを使用したクラフトビールを試作販売・醸造所との連携。



試作販売したヤチヤナギビール (即日完売)

利用しやすい場の整備

駐車スペースを整備し、今後観察デッキ等を整備

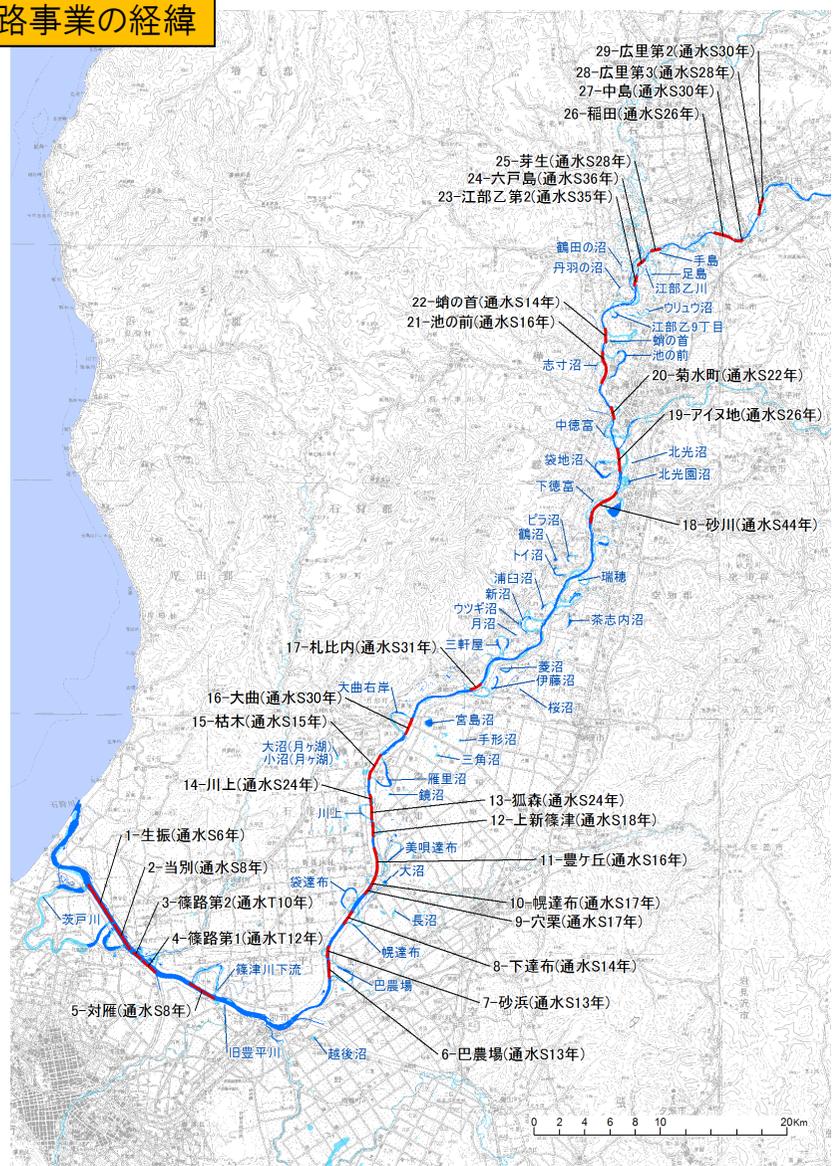


整備済

旧川・湖沼群の変遷 ～ 生態系ネットワークの形成

- 大正7年に最下流の生振捷水路から石狩川下流の捷水路工事が始まり、砂川捷水路を昭和44年に通水して完了。
- 29箇所の捷水路工事によって、石狩川下流の河道は約60km短縮。
- 河道拡幅や堤防整備事業等の治水事業を進め、農地開発等の土地利用が進展した一方、低平地に分布していた湿原や数多く点在していた湖沼も減少。

主な捷水路事業の経緯



旧川・湖沼群の変遷

旧川・湖沼群の箇所数

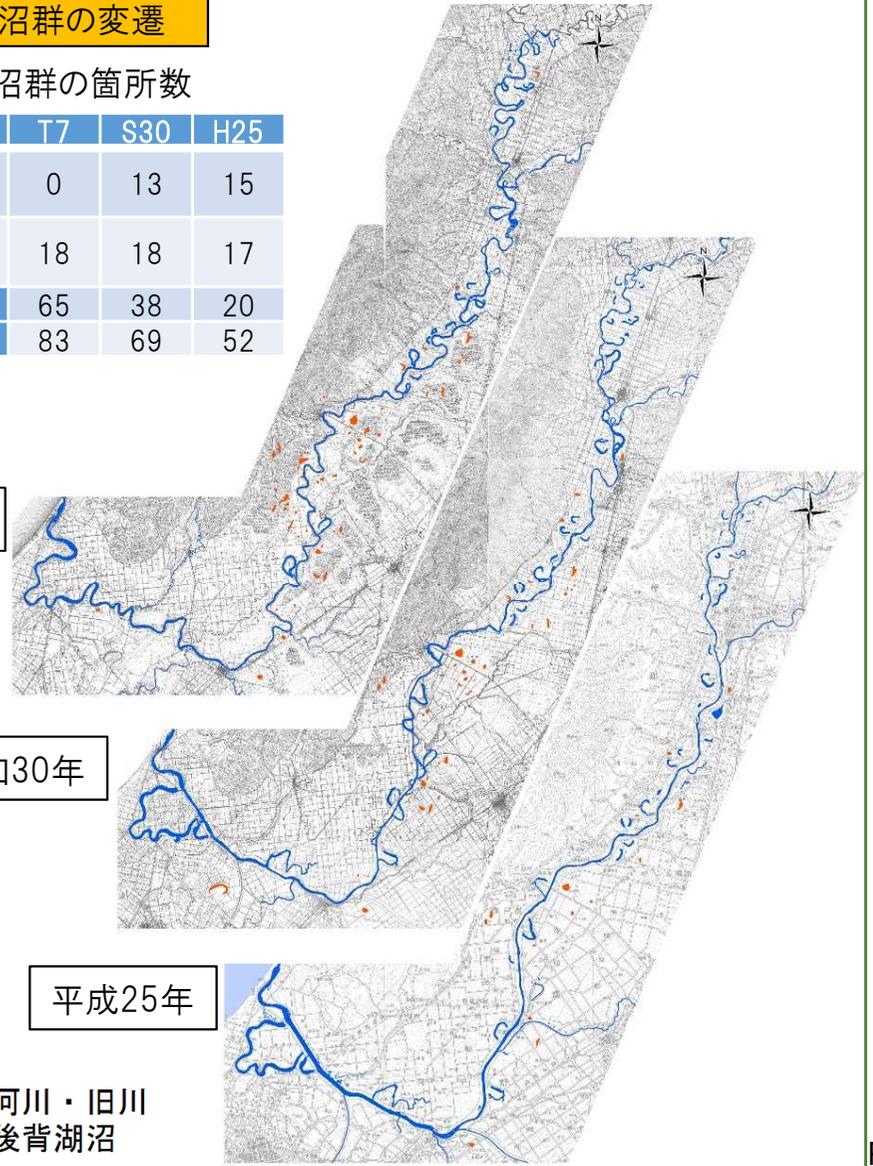
	T7	S30	H25	
旧川数	捷水路由来	0	13	15
	自然短絡由来	18	18	17
湖沼数	65	38	20	
合計	83	69	52	

大正7年

昭和30年

平成25年

■ 河川・旧川
■ 後背湖沼



渡り鳥の飛来状況

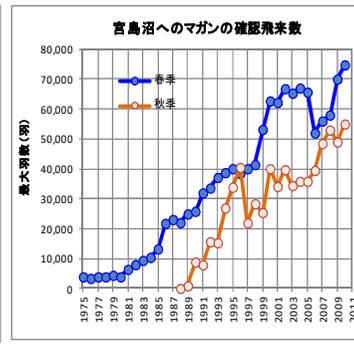
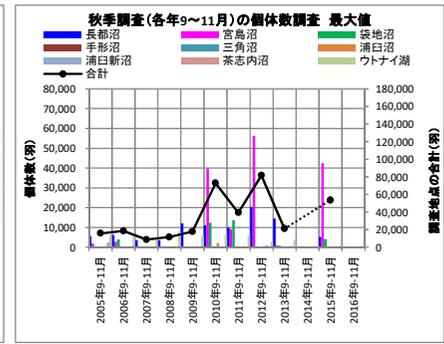
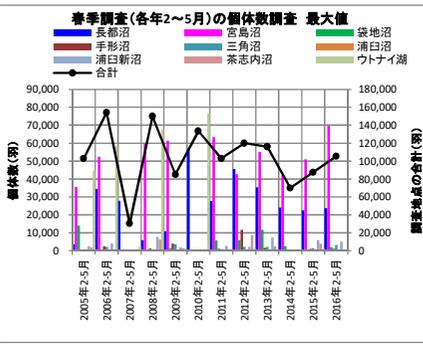
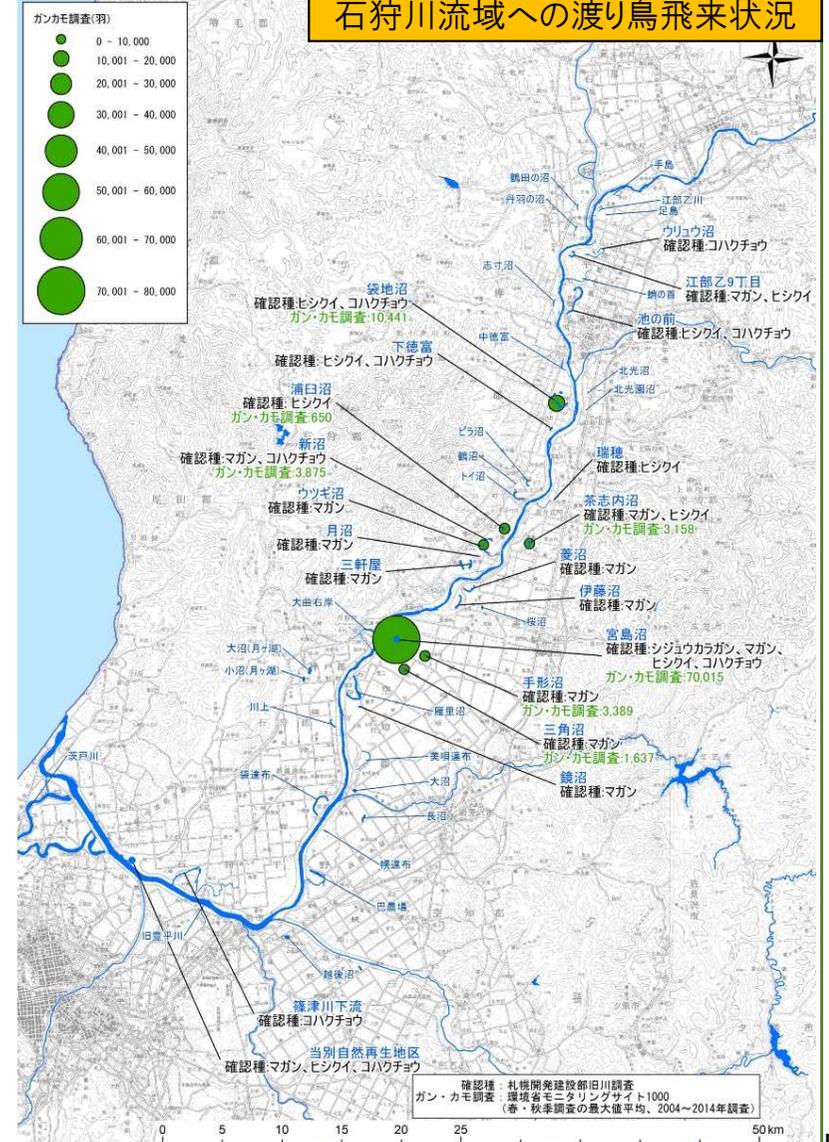
- 石狩川流域は、北海道中央フライウェイと呼ばれる渡り鳥のルート上に位置しており、ラムサール条約登録湿地である宮島沼には、毎年40,000～60,000羽のマガンが飛来し、年々増加傾向。
- 石狩川下流域に位置する旧川群、自然再生の先行した取り組みが進められている当別地区など、石狩川下流域の湿地環境は、ガンカモ類の渡りの重要な中継地点となっている。

北海道における渡り鳥飛来状況

春季・秋季調査の最大確認数の平均
(環境省生物多様性センターモニタリングサイト1000)



石狩川流域への渡り鳥飛来状況

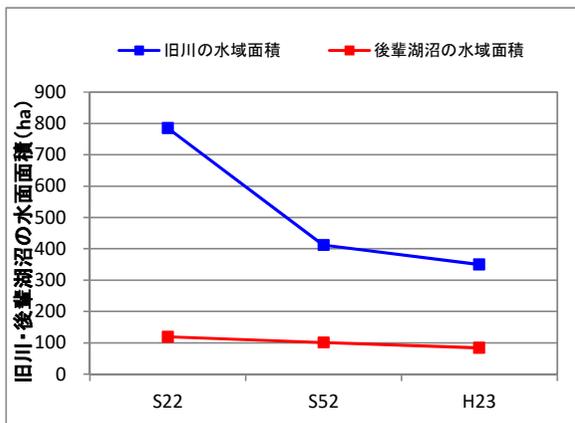
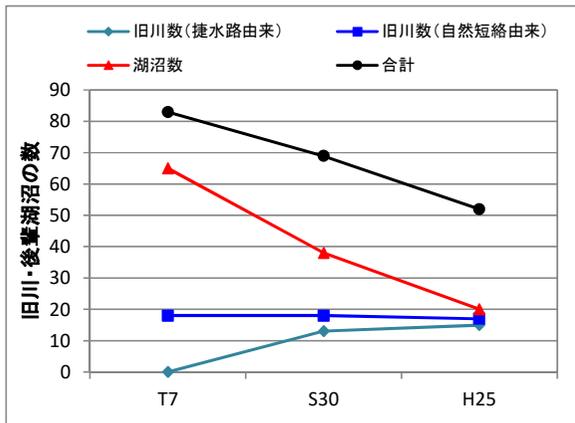


旧川・湖沼群の課題

- 河川、湖沼、湿原等は、森林、農地、都市、沿岸など、上流から下流に至る各地域を連続した空間として結びつける、国土の生態系ネットワークの重要な基軸。
- 旧川・湖沼群のような氾濫原水域は危機的な速度で消失し、かつて65箇所あった湖沼は現在20箇所に減少。
- 宮島沼における水環境問題など、石狩川流域の生態系ネットワークを支える重要な基軸の劣化が顕在化。

氾濫原水域の減少

- 大正7年から平成25年にかけて、湖沼数が65箇所から20箇所に減少。
- 昭和22年から昭和52年にかけて、旧川の水面面積が約50%に減少。



宮島沼の水環境問題・渡り鳥の集中化

- 宮島沼は、有数のマガンの中継地となっており、地元の美唄市だけでなく北海道が誇る大切な資産。
- 宮島沼では、①急速に悪化している水環境問題(湖沼の縮小、浅底化、植物残渣の堆積)、②渡り鳥の集中化による周辺農地におけるマガンの食害問題の2つの大きな問題が顕在化。

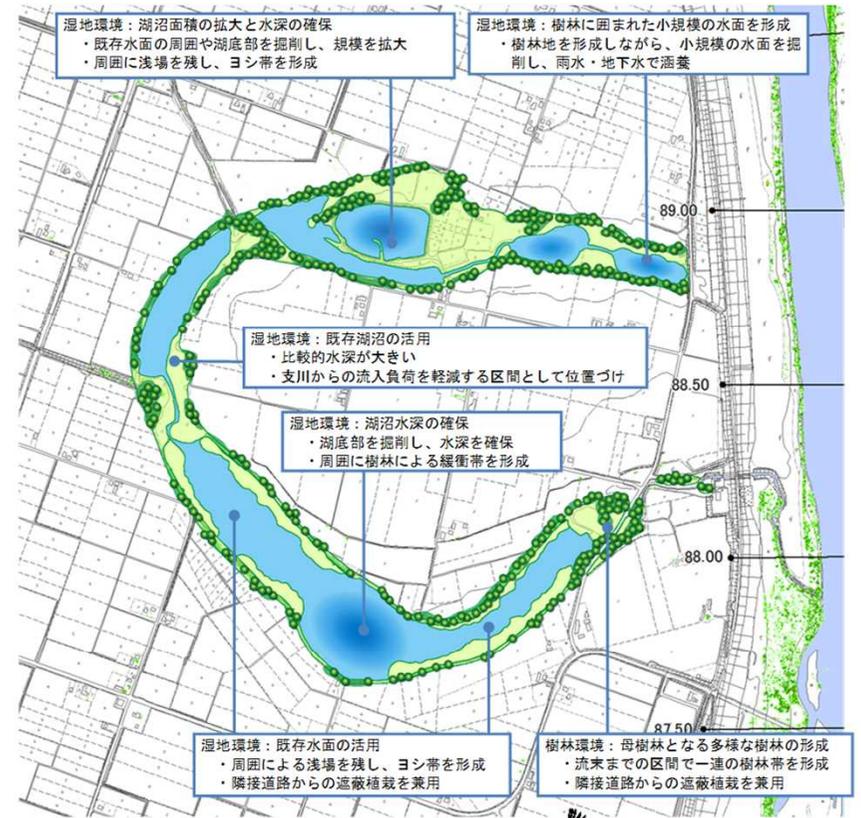


宮島沼水面面積の減少

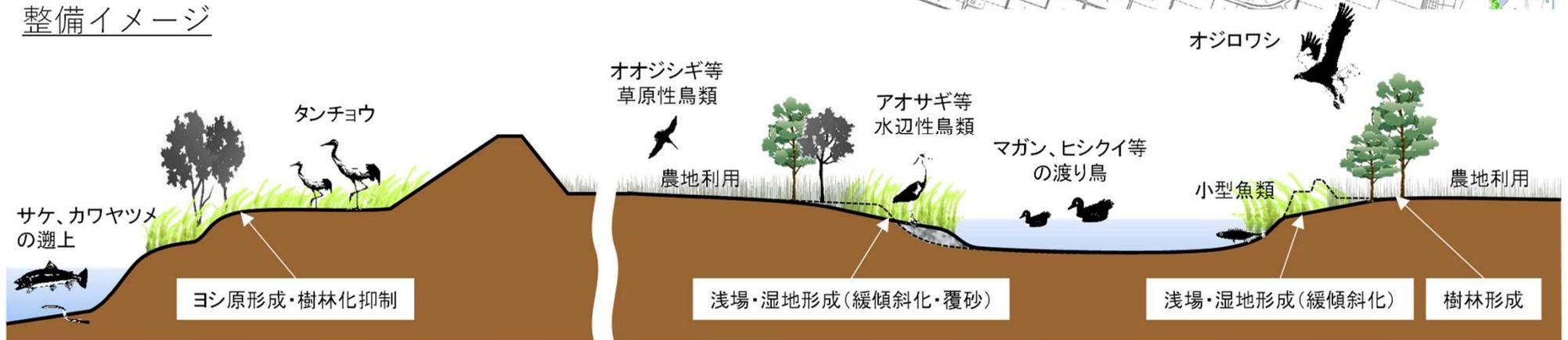
石狩川下流旧川群自然再生(袋地沼)

有識者からの意見収集、ワークショップ(地域連携)を通じて検討を進め、モデル旧川での自然再生を進める。

R4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業対象旧川の抽出 ・ 現地調査 (鳥類・魚類・水質) ・ 治水効果の把握 (外水氾濫・内水氾濫) ・ 生物効果の予測、整備の方向性検討 ・ 実施計画素案作成 (勉強会意見をFB)
R5~6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査 (鳥類・魚類・水質)、測量調査 (縦横断・陸域) ・ 整備方策の具体化 (造成形状・整備方策) ・ 治水効果の詳細検討 ・ 生物予測評価手法の検討、目標設定の検討 ・ モニタリング計画立案、利活用方策検討 ・ 実施計画案の検討 (勉強会・WS意見をFB)
R7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画取りまとめ、実施設計
R8以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事実施、モニタリング調査



整備イメージ



石狩川

袋地沼

砂川地区かわまちづくり (砂川スイーツが結ぶ まち・人・水辺)

砂川オアシスパーク(砂川遊水地)を活用するため、アウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行うとともに、ウォーターヒルズスクエアを都市・地域再生等利用区域に指定することによって、民間事業者等による営業活動を可能とし、砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として整備します。

ソフト施策

地域と連携し様々なイベントを実施

- ・THE祭り、石狩川下覧権、防災フェスティバル (例年7月開催)
- ・ラブ・リバー砂川夏祭り、砂川納涼花火大会 (例年8月開催)
- ・秋のおくりもの展 (例年9月開催)
- ・すながわマラニック大会 (例年9月開催)
- ・アイスカーセル (例年2月開催) 等



ハード施策



整備主体	整備内容	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
河川管理者	高水敷改正		■	■	■					
	親水護岸				■					
	管理用通路				■					
	水路工	■								
	測量・設計	■	■	■	■					
	モニタリング					■	■	■	■	■
砂川市協議会	施設整備等			■	■					

砂川地区かわまちづくりの利活用状況

THE 祭り (令和4年7月16、17日)



砂川納涼花火大会 (8月5日)



すながわスイートマラニック (令和4年9月19日)



砂川地区かわまちづくりの利活用状況

秋のおくりもの展（令和4年9月4日）



秋のおくりもの展（令和4年9月4日）



秋のおくりもの展（令和4年9月4日）



秋のおくりもの展（令和4年9月4日）



恵庭地区かわまちづくり (花のまち恵庭で広がる、水辺の観光拠点と次世代住環境)

恵庭市の「ガーデンデザインプロジェクト」では職・住・観光機能拡充のため、道と川の駅(花ロードえにわ)周辺を「花のビレッジ」と位置づけ、市による花の拠点(公園)整備と共に、民間事業者による新住宅団地の建設を進めている。これらの事業と国が連携し、管理用通路の整備等を通じて公園や市街地との連続性を向上させるとともに、親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造し、観光地の魅力や居住環境の向上を図る。

ソフト施策

地域と連携し様々なイベントを実施

- ・恵庭・花とくらし展、えにわマルシェ: 毎年6月同時開催
- ・かのなサマーフェス: 毎年8月
- ・サイクルフェスタ恵庭: 毎年9月頃
- ・恵庭ウォーキングマップへの河川沿いルート掲載
- ・えにわシーニックナイト: 毎年2月
- ・サケの稚魚放流: 4月、ヤマメ稚魚放流: 6月
- ・千歳川かわ塾(川や水の大切さを学ぶ体験環境学習)

ハード施策



サケの稚魚放流



えにわマルシェ

「道と川の駅(花ロードえにわ)」は、河川・道路・まちづくりが一体となり整備(H20全面オープン)。



道路事業 (特定交通安全施設等整備事業) まちづくり交付金 河川事業 (水辺プラザ整備事業)

整備エリア	主体	工種	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
かわゾーン整備	国	測量・設計										
	国	親水護岸										
	国	管理用道路										
	国	モニタリング										
花の拠点整備	恵庭市	緑地										
	恵庭市	公園等										

恵庭地区かわまちづくりの利活用状況

ガーデンフェスタ北海道2022（令和4年6月25日～7月24日）



ガーデンフェスタ北海道2022（令和4年6月25日～7月24日）



ガーデンフェスタ北海道2022（令和4年6月25日～7月24日）

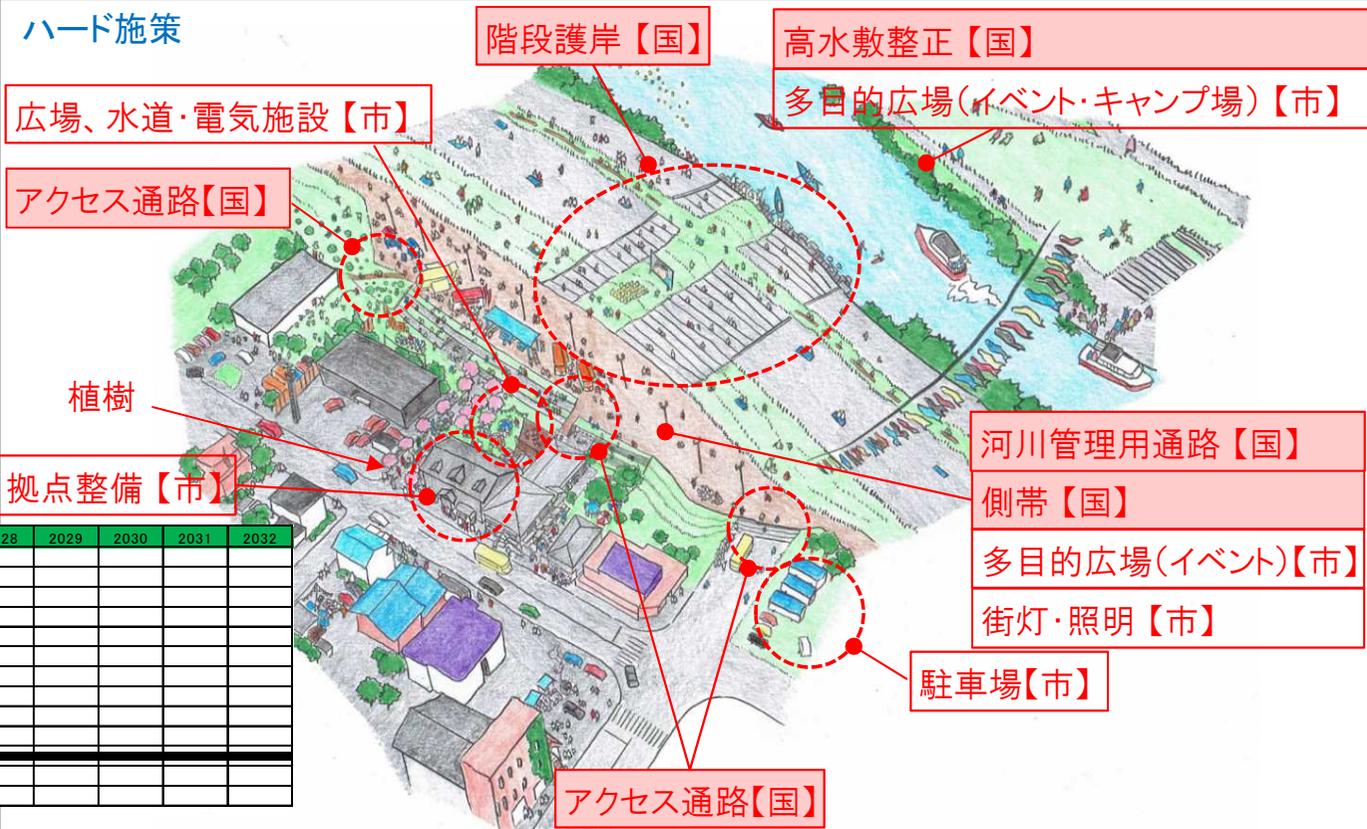


ガーデンフェスタ北海道2022（令和4年6月25日～7月24日）



江別市かわまちづくり

江別市は、条丁目地区・大川通地区と千歳川が一体となった水辺空間の活用、条丁目地区内の歴史的建造物の活用、周辺地域との連携、条丁目地区の歴史・文化の発信を推進し、江別港を中心に舟運で栄えた江別市条丁目地区の歴史性を活かした新たな「条丁目スタイル」の観光・まちづくりによる賑わいの創出により、条丁目地区・大川通地区を含む江別市の地域活性化に寄与することを目指します。



整備主体	整備内容	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
河川管理者	かわまちづくり施設実施設計											
	かわまちづくり勉強会											
	高水敷整正											
	側帯											
	河川管理用通路											
	河川管理用通路 階段工①(川裏)											
	河川管理用通路 階段工②(川裏)											
	河川管理用通路 階段工③(川裏)											
	河川管理用通路 取付道路(川裏)											
	階段護岸											
モニタリング												
堤防整備(他費目)												
江別市	旧岡田倉庫(外輪船)移設等											

ソフト施策
 国交省:都市・地域再生等利用区域の指定等
 江別市:千歳川の水辺空間を活用した新たなイベントや冬のアクティビティ等の企画、水辺・歴史的建造部とまちをつなぐ広域周遊観光コースの設定等



「江別市かわまちづくり」計画 登録証伝達式 (令和4年8月22日)

令和4年8月9日付けで 「江別市かわまちづくり」計画が新規登録



(右) 富山札幌開発建設部長から (左) 江別市長へ登録証を伝達



伝達式は関係者約 11 名が参加！

「江別市かわまちづくり」(北海道江別市)

対象河川：一級河川 石狩川水系千歳川【国管理河川】
 市町村名：北海道江別市
 推進主体：江別市

1. 概要
 江別市では「江別市都市計画マスタープラン」に基づき、江別駅周辺の歴史性や界隈性、良好な河川環境等の特性を活かした地域の魅力向上を目指して、重要な地域資源である千歳川と共存した地域づくりを推進しています。
 この取組を充実させるため、本計画では、石狩川合流点付近の千歳川の水辺整備を行い、水辺・周辺の歴史的建造物・まちをつなぐことで、まちなかの回遊性・親水性を高め、賑わいの創出による地域の活性化を図ります。
 国土交通省では、この取組に対し、必要な河川管理施設の整備のほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川占用敷地許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容
 国土交通省：側帯、階段護岸、高水敷整正、河川管理用通路、アクセス通路
 江別市：拠点整備、多目的広場、駐車場、街灯・照明、水道・電気施設

3. ソフト施策の内容
 国土交通省：都市・地域再生等利用区域の指定 等
 江別市：千歳川の水辺空間を活用した新たなイベントや冬のアクティビティ等の企画、水辺・歴史的建造物・まちをつなぐ広域周遊観光コースの設定 等

整備イメージ

※今後、工事実施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

「南富良野町かわまちづくり計画」及び「幾寅地区MIZBEステーション」登録証伝達式（令和4年8月22日）

令和5年9月8日、南富良野町が策定した「かわまちづくり計画」及び北海道開発局と南富良野町が連名で申請した「幾寅地区MIZBEステーション」が登録されたことから、南富良野町への伝達式を行いました。

札幌開発建設部 小林部長より南富良野町 高橋町長に登録証が伝達され、高橋町長からは「観光施設と連携し、地域活性化の拠点として多くの方が訪れる町の玄関口となることを期待している」とお話がありました。

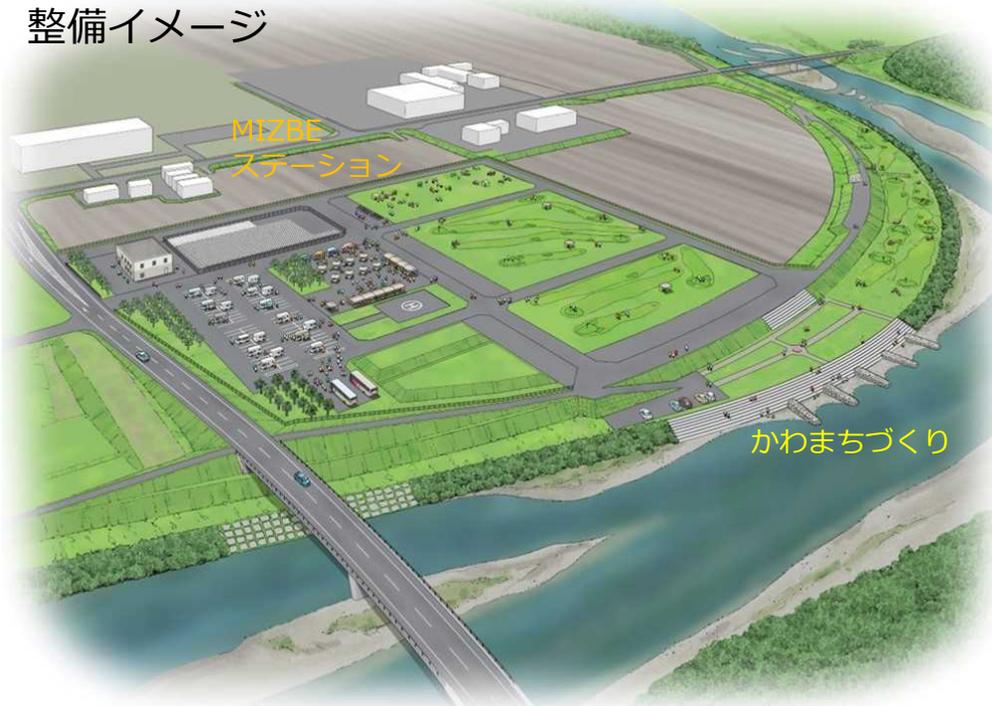


令和5年8月10日付けで「南富良野町かわまちづくり計画」が登録



令和5年8月22日付けで「幾寅地区MIZBEステーション」が登録

整備イメージ



高橋町長が「南富良野町かわまちづくり計画」の登録証、岩淵副町長が「幾寅地区MIZBEステーション」の登録証を手にし記念撮影

かわたびほっかいどう ～ 地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携

■ひつじ除草

○当別町の石狩川右岸堤防において「ひつじ」を活用した除草を実施。河川維持管理コストの縮減と環境への配慮の観点から、今年度新たに河川部門で試行的に実施。実施期間：令和5年5月29日～10月14日
 ○今後、「ひつじ除草」の効果を確認・検証するとともに、河川空間における水辺や「ひつじ」とのふれあい、周辺施設を活かした地域振興へ資する取組の展開を検討→当別町の道の駅に案内ポスター、ルート上に看板設置
 ○連携相手：当別町等

■サイクルツーリズム

○石狩川流域圏ルートの検証、PR、モニタリングを主眼として、走行会をR3、R4に実施。R5は10月3日に空知、4日に千歳、25日に旭川で実施。
 ○サイクリング協会、関係自治体サイクル担当者(旭川市千歳市、滝川市、恵庭市、北広島市、)等が参加し走行。コースを走行後に、路面状況など気づいた点や改善した方がよい点など、参加者アンケート調査を実施。
 ○R3、サイクルルート協議会へ応募。R4はアクションプラン策定。
 ○連携相手：石狩川流域圏会議

【取組エリア】※ 国道337号札幌大橋右岸上流



【取組地域の紹介】

取組地域の当別町太美地区は、札幌市に隣接する田園都市であり、令和4年3月12日の、JRロイズタウン駅の開業やアミューズメント性を兼ね備えたロイズふと美工場直売店が同年3月1日オープンするなど、今後、人を呼び込む流れが加速し、発展が期待される地域です。



更なるコスト縮減と環境への配慮



かわたびほっかいどう

CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2023

- 10周年となる今年は「CHITOSE みらい EXPO」と題し開催。
- 千歳川にテラスを設置し憩いの場を提供。飲食ブースやアクティビティ、展示ブースなど26の出展。
- シーニックバイウェイと連携した事業紹介ブースも設置。
- 連携相手:千歳青年会議所、シーニックバイウェイ

CHITOSE RIVER CITY PROJECT 2023
みらい EXPO
 7/29・30
 千歳川 清水滝水公園
 千歳市千歳川1丁目1番1号

この夏世界とつながろう

7/29 11:00-15:00
 7/30 11:00-15:00

7/29 15:00-19:00
 7/30 15:00-19:00

7/29 19:00-21:00
 7/30 19:00-21:00

※詳細は各出展ブースにてご確認ください。



北海道カメラ女子の会との連携

- 北海道カメラ女子の会と連携し、インスタなどで魅力を発信してもらう、石狩川クルーズと川の博物館のモニターツアー開催。
- 北海道カメラ女子の会とは、北海道に住むカメラや写真が好きな女性が集まる会員数が約610名の北海道最大のカメラ女子のコミュニティ。市町村や企業とコラボして様々な魅力を発信している。
- 今後、北海道カメラ女子の会と連携し、情報を発信していく。
- 連携相手:北海道カメラ女子の会 <https://hokkaido-camera.com/>

新桂沢ダム・三笠ぼんべつダム見学会

- 新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダムを建設する幾春別川総合開発事業について、一般の方々に広くご理解頂くため、ダムの建設現場等の見学会を行うとともに参加者と意見交換会を実施。→R5 7月29日に実施

新桂沢ダムと三笠ぼんべつダムを見に来ませんか？夏
 ダム職員による見学会・意見交換会を開催します

新桂沢ダム(仮称)

三笠ぼんべつダム工事状況
 ダム本体を支える岩盤で支えるために、山の表面の土砂や崩れを取り除く削削を開始しました。



見学会・意見交換会の目的
 北海道開発局が実施している幾春別川総合開発事業について広くご理解いただくため、三笠市に建設している新桂沢ダム及び三笠ぼんべつダムの建設現場の見学会及びダム事業についての意見交換会を実施します。

- 期日/2023年7月29日(土) (少雨決行)
- 新桂沢ダム建設現場(見学)・三笠ぼんべつダム建設現場(見学)
- 意見交換会(皆様のご質問にお答えします【室内】)
- ※当日の天候や現場の状況により、やむを得ず中止または内容を変更する場合があります。

- 参加/無料
- 添乗員/同行
- 食事/なし
- 募集人員/40名 (応募多数の場合は抽選とさせていただきます。抽選結果は改めてメール等にてご連絡申し上げます。)
- 応募期間/7月3日(月)13:00より7月12日(水)13:00まで
- 主催/北海道開発局札幌開発建設部幾春別川ダム建設事業所
- 利用バス会社/札幌ばんけいバス、ダイコク観光バス

※募集対象・応募方法については、裏面をご確認ください。

コースコードXC0012



かわたびほっかいどう (アイスカルーセル)

アイスカルーセルとは、フィンランド発祥の冬の遊びで、氷を円状に切り抜き湖上で回転させる氷のメリーゴーランド。ダム湖を中心とした360度に広がる大絶景を非日常的な視覚感覚で楽しむことができる。

■金山ダム湖アイスカルーセル

- 継続的で採算が取れるようなイベントにできるかという観点で町と観光協会で議論を進めている。金山ダムの冬季結氷する湖面を活用することで、地域振興観光発展に資するコンテンツを造成することの可能性について、実証実験及び検証を令和4年1月19日実施。
- 連携相手：南富良野町まちづくり観光協会、南富良野町



寝そべったり座ったりして動く氷の円盤を楽しむ参加者ら

■オアシスパーク（砂川遊水地）アイスカルーセル

- 夏だけではなく冬も含めた一年を通して砂川遊水地を利用するため、「冬のオアシスパークを満喫しよう！」のイベントの一環として令和5年2月11日に実施。当日は総勢200名がアイスカルーセルに参加。
- 連携相手：砂川観光協会、オアシスパークからゆめまちづくり協議会等



■定山溪ダム湖アイスカルーセル

- 札幌の奥座敷定山溪地区にある、定山溪ダムの冬季氷結する湖面を活用することで、地域振興観光発展に資するコンテンツを造成することの可能性について、実証実験及び検証を令和4年1月23日実施。
- 連携相手：定山溪観光協会、TOYAMA推進協議会



■夕張スーパーダム湖アイスカルーセル

- 「ゆうばりde冬あそび」のイベントの一環として令和5年2月9日～令和5年2月12日で実施。
- 連携相手：夕張de街あそび実行委員会(夕張市)



河川空間を活用した民間事業者の取り組み

- 川見(8月19~27日)
 - R5年はロングラン開催(6回目の開催)
- 豊平川の幌平橋下流左岸において、キッチンカー、出店、ステージイベント等を開催。川見では夜の幌平橋ライトアップも実施。今後も、特区申請に向けた打ち合わせやイベント開催について事務所、本部で協力を継続。



川見